

年 組 名前：

授業前に交流、味も評判だが…



夜間の授業前に給食を食べる生徒。調理員不足で継続が危ぶまれている
＝南アルプス・巨摩高

巨摩高定時制給食ピンチ

調理員不足、確保に奔走

巨摩高定時制（南アルプス市小笠原、武藤一輝校長）の給食提供が休止の危機にある。夜間の授業前に生徒の腹を満たしてきたが、調理員不足で今学期以降継続できるか不透明になっている。生徒にとっては「友人や先生と交流できる楽しい時間」でもあり、同校は在学生保護者らに声をかけるなど調理員の確保に奔走している。

〈戸松優〉

11日午後5時。同校の食堂「グとほうれん草サラダ」のつに、定時制の生徒と教員が集った。アレーナを調理員から受け取った生徒から「いただきます」の声がかかる。調理員の確保に奔走している。

「おいしいからたくさん食べたい」と笑顔。「授業が終わった深夜に食事をするのもなくなった。先生や他学年の人とも話せる楽しい時間」と続けた。

夜間に授業をする定時制の夜間学校給食は、法令で学校が実施に努めるものとされ、各高校が調理員を募集し、希望する生徒に提供している。県教委によると、県内では定時制夜間部がある高校6校のうち、巨摩高を含む5校で学校給食が提供されている。巨摩高定時制では、調理員が確保できず2022年度から給食を休止。昨年12月に調理員を確保できたことから提

供を再開していた。再開当初は生徒3人、教職員2人の利用にとどまっていたが、おいしさが話題になり利用者が増加。現在は全校生徒18人、教職員6人のうち、計13人が給食を利用している。

毎月栄養士と調理員が生徒のリクエストを聞きながらメニューを決定。1食380円で提供することで、生徒の経済的負担軽減にもつなげている。矢崎豊教頭は「給食を再開してから、生徒の遅刻や欠席が大きく減った。アルバイト後に疲労を回復し、授業に集中して向き合える効果もある」と話す。生徒と教員がテーブルを囲むことで、学年を超えた交流が生まれ、教員が生徒の悩みに気づく場にもなっているという。

ただ、調理員の退職に伴い2学期以降は給食提供の見通しが立っていない。同校は在校生の保護者らに呼びかけ、調理員を募集しているほか、公共職業安定所にも求人を出している。業務には調理師免許が必要で、後任は見つかっていない。武藤校長は「給食を通じた教育効果が出ている。提供を続けられるよう、調理員の確保に努めたい」としている。

(2025年7月22日付 山梨日日新聞 16面)

問1 巨摩高定時制の給食提供がなくなってしまう危機にあります。その理由を教えてください。

.....

問2 1食380円のメニューは、どのようにして決めていますか。

.....

問3 一時期中断していた給食を再開したことで、どのような良い事がありましたか。

.....

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2025 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.